

オリンピック・リテラシー(オリンピックについての理解)を高めよう
2018年冬季オリンピック、韓国・平昌(ピョンチャン)開催決定を祝って

開倫塾
塾長 林明夫

1. 2018年冬季オリンピックの開催がおとなりの韓国に決まってよかったと思います。日本は2020年夏のオリンピックを東日本大震災からの復興を祈念して開催しようとしています、これも素晴らしいチャレンジと考えます。

2. ただ、少し残念なのは、日本人は、オリンピックがある時は盛り上がるものの、オリンピックについての基礎的な知識や理解が他の国と比べ少し不足していることです。オリンピックについての知識や理解をオリンピック・リテラシーというそうです。オリンピックの歴史やオリンピズムと言われる基本的精神、課題などについての理解を深め、オリンピック・リテラシーを向上させたいものです。

私は、市川崑監督の1964年の東京オリンピックの公式記録映画を何回も見て深く感動しました。世界の若者がフェアプレイの精神のもとで力の限りを尽くして闘い合い、競技が終わった後はお互いをたたえ合う姿は、これがオリンピック、オリンピズムそのものだ、映画を見て感じました。

3. オリンピックの開催地ではどこの国でも、世界中の競技者やお客様をお迎えするために、国を挙げて会場や宿泊地を整備すると同時に、都市の機能の飛躍的な向上を図ります。

例えば、日本でも1964年の東京オリンピックの時には、東海道新幹線をはじめ22の高速道路、2路線の地下鉄を施設しました。今ではあたりまえのように行われているTV映像の国際生中継(同時中継)が行われたのも、東京オリンピックが初めてでした。マラソンの完全中継も世界で初めて行われました。

2008年の北京も、2012年のロンドンも、2016年のリオデジャネイロも、オリンピックを活用して国や都市の整備を一気に図り、また、図ろうとしています。近代都市としてのインフラ整備や科学技術の発展にも大きく貢献するのがオリンピックとも言えます。

4. オリンピックと並行して行われる「パラリンピック」についても理解を深めましょう。

5. 近代オリンピックの父と言われるクーベルタンは「オリンピックは参加することに意義がある」と言いましたが、その意味は「異邦人に負けるかもしれないという考えによって熱意に水を差してはならない」、「不名誉とは敗北ではない、参加しないことなのだ」、「人生で重要なことは勝利ではなく努力することである、重要なことは勝ったことではなく、よく戦ったということである」とい

うことであると言われていました。

6. 何のためにスポーツをやっているのか、スポーツをすることによりどのようなことが身に付くのかを考えてみましょう。「練習は不可能を可能にする」と「フェアプレイ」の精神、「よき友」の「三つの宝」物がスポーツをやることで得られると、慶應義塾大学の元塾長の小泉信三先生は言っていますよ。

2011年7月14日 林明夫記